

平成22年度第1回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成22年9月17日(木) 13:30～15:30
場 所 山形県立博物館講堂

1 開 会

2 あいさつ

- (1) 教育庁文化財保護推進課長
- (2) 山形県立博物館長

3 委員紹介

4 山形県立博物館協議会長・副会長の選出

丸山会長(再任)、日野副会長(再任)

5 会長あいさつ

6 報 告

- (1) 平成22年度主要事業の進捗状況について
- (2) その他
(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○安達委員

教育資料館開館30周年記念展の入館状況はどうか。

○事務局

7月及び8月の入館者統計を見ていただきたい。1日の平均入館者数で見ると、昨年、同時期に開催された「山寺展」とほぼ同じ入館者数である。

○丸山会長

職員の人事異動が関係して、「神室少年自然の家」での親子博物館教室の開催を取り止めたということだが、どのような事情があったのか。

○事務局

地学部門の学芸員が転出して、4月からかわりに歴史部門の職員が配置された。地学部門には、嘱託職員が新たに担当することになったが、地層関係の専門ではないために、すぐには対応できなかったことによる。

○野口委員

これから開催される「縄文のキセキ」展の広報はどうなっているのか。また、古文書講座の状況はどうか。

○事務局

10月から始まる「縄文のキセキ」展には、マスコミ等に広報依頼をしたほか、県の関係機関を通じて広報につとめている。古文書講座はたいへん好評で、本年度は入門篇に加えて、ある程度古文書を読めるようになった人を対象とした中級編も開催することにした。

○三浦委員

本館のホームページを大幅にリニューアルしたことで、県外からの問い合わせも増えたということだが、具体的にはどのような照会などがあつたのか。また、館長・学芸員講座第3回の受講者数が少なかったことについて、何か心当たりはないか。

○事務局

県外からの問い合わせ等を集約してはいないが、主に県内の歴史に関する質問が多いようだ。地域の詳しい歴史を研究している人が実際に調査に訪れた例もあつた。また、トルコと日本との建築の関連に関する照会もあつた。

○安達委員

館長・学芸員講座第3回の担当講師は、クモの専門家として有名な職員のはずだが、広報の仕方や講座のネーミングが影響したのではないのか。

○事務局

内容的にはアカデミックで興味深いものであつたが、一方、内容があまりに専門的過ぎるとひいてしまう人も多くなる。親しみやすいネーミングも大事であると考えている。

○丸山会長

「縄文のキセキ」展の広報について、県がバックアップして事前にテレビなどに映像を流せないものか。

○事務局

県の方で広報番組などを持っているので、タイミングよく情報を流すように検討したい。

7 協議事項

(1) 山形県立博物館の今後の運営及びあり方について

- ① ホームページの改善について
- ② 資料のデータベース化について
(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○丸山会長

ホームページのリニューアルや資料のデータベース化について説明があったが、誰がどのような形で関わったかが見えてこなかった。この件についてもう少し詳しい内容を聞かせてほしい。

○事務局

本事業は、株式会社アーキネットに業務委託する形で実施されている。国からの「ふるさと雇用再生特別基金事業」による「山形県公募型雇用創出事業」が募集され、株式会社アーキネットから提案された「地域資源のデジタル化」事業の一環として本事業をおこなっている。本館でも資料のデジタル化やデータベース化を検討していたところであり、うまくマッチングした。また、膨大なデータ入力などの作業については、「緊急雇用創出臨時特例基金事業」を活用して人員を確保することもできた。

○丸山会長

本館には、情報担当の専門職員がいないということだが、今後ホームページをメンテナンスしていく上で心配はないのか。期間が限定された事業なので業者だけに頼ることは、できないのではないか。

○事務局

本事業が終了してもシステムの保守・管理については安価に済むように、また、情報の更新など今後の運用については、全職員が容易に行なえるようにシステムの構築を進めている。職員の情報系のスキルアップは今後とも図る必要があると考えている。

○丸山会長

本館で行なわれているような事業は、他の機関ではどのような状況になっているのか。県として何らかの働きかけのようなものはあるのか。

○事務局

県博物館連絡協議会の主催によるデジタルアーカイブの研修会を開催したところ、多数の加盟館からの参加があった。しかし、県全体としてデジタルアーカイブに向けての足並みはそろってはいない。県内の博物館等で一体運用するまでには至っていない状況にある。

③休館日(月曜日)が祝日のときの対応について

(事務局より説明)

〈質疑応答〉

○日野副会長

これまで、本館でも月曜日が祝日の場合は、開館しているものだと思っていた。世間一般通りの対応をしてもらいたい。昨年の8月から文翔館では、多くの要望があり、第1・第3以外の月曜日も開館するようにした。そのための措置として、嘱託職員を1名増員してもらった。本館の場合、職員の定数があまりにも少ないので、職員の増員を粘り強く要望してもらいたい。そのことがひいては、県民サービスの向上にもつながる。

○酒井委員

展示会の期間中は、担当の学芸員はできるだけ出るようにしてほしい。

○野口委員

一般の市民感覚からすれば、できるだけ開館してほしいものだ。勤務体制については、職員の力を十分に発揮できるような配慮が必要だ。

○安達委員

来館者等の要望と館の事情とのバランスを考慮すべきだ。月曜日が祝日の場合に開館するのは、当然の流れだ。開館日はできるだけ増やしてほしいが、職員の士気が落ちないような勤務体制への配慮も必要だ。

○後藤委員

山形市の施設も同様の案件を抱えている。市の中央公民館も市民からの要望を受けて、今年11月から第3日曜日を開館するようにした。勤務の割り振りについては、職員が納得できるものにしてもらいたい。

○三浦委員

基本的に事務局の説明通りでよいと思う。私は、「保存」の方を専門としているが、展示品も疲弊しないようにメンテナンスが必要なので、休む時は休むこ

とも大事だ。

○丸山会長

協議会委員個人の考えとしては、職員の多くが同意した「月曜日・休館を原則とする。ただし、祝日のときは翌日を休館日とする」案に賛意を示す意見が大勢を占めたということでまとめたい。

なお、東北の県立博物館の職員数をみて、本館の職員数が他に比べて半数というのは驚いた。これからの県の行政改革推進委員会では、正職員が運営しなければならないという発想が見直しされてくるだろう。

④その他

〈質疑応答〉

○酒井委員

県の行改委員会では、見直しの対象となる県の出先機関のひとつに本館が挙げられているが、人員や予算などの面でよい方向に検討されると理解してよいか。

○事務局

行革委員会の中では、指定管理者制度の導入ということが大きなテーマになるのではないか。この中では、費用対効果という視点だけではなく、博物館としての機能やサービスのあるべき姿を説明していきたい。次世代に大切な文化財を伝えていくのが博物館の本来の役割でもあることから、運営のノウハウやコスト面だけでは解決できないこともあることを強調していきたい。

(2)その他

特になし

8 その他

特になし

9 閉 会

以上